

環境経営レポート



対象期間：2023年6月～2024年5月

2023年度版

株式会社本岡工業

2024年9月2日発行

目 次

1	組織の概要		1
2	対象範囲		3
3	環境経営方針		4
4	環境経営目標とその実績及び評価		5
5	環境経営計画と取組状況の評価		9
6	社会貢献活動の実施状況		11
7	環境教育の実施		11
8	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無		12
9	代表者による全体評価と見直しの結果		12
10	次年度の環境経営目標及び環境経営計画		13

1 組織の概要

(1) 事業者名及び代表者名

株式会社 本田工業

代表取締役 本田 双界

(2) 所在地

本社

〒950-1342

新潟県新潟市西蒲区河間125-2

TEL : (025) 375-3399

FAX : (025) 375-2967

(3) 環境管理責任者名及び連絡担当先

環境管理責任者 : 本田 双界

連絡担当者 : 本田満喜子

TEL : (025) 375-3399

FAX : (025) 375-2967

E-mail : honda.co@hondakogyo.com

(4) 会計年度 6月～翌5月

(4) 事業内容

建設業（土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業、水道施設工事業、解体工事業、管工事業）

産業廃棄物収集運搬業、特別管理産業廃棄物収集運搬業、一般廃棄物収集運搬業

(6) 事業の規模

項 目	単位	2021年度	2022年度	2023年度
産業廃棄物収集運搬量	t	423.3	1,695.8	1,125.3
特別管理産業廃棄物 収集運搬量	t	8.6	22.7	9.8
工事件数	件	159	158	156
従業員数	人	27	26	28.0
売上高	百万円	369	440	464
事務所床面積	m ²	424	424	424
倉庫床面積	m ²	186	186	186
資材置場面積	m ²	1,944	1,944	1,944

(7) 資本金

3,000万円

法人設立年月日

昭和47年3月27日

(8) 環境負荷の実績

項 目	単位	2021年	2022年	2023年
電力使用量	kWh	14,538	14,628	14,477
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	113,939	129,996	140,623
水資源投入量	m ³	212	217	229

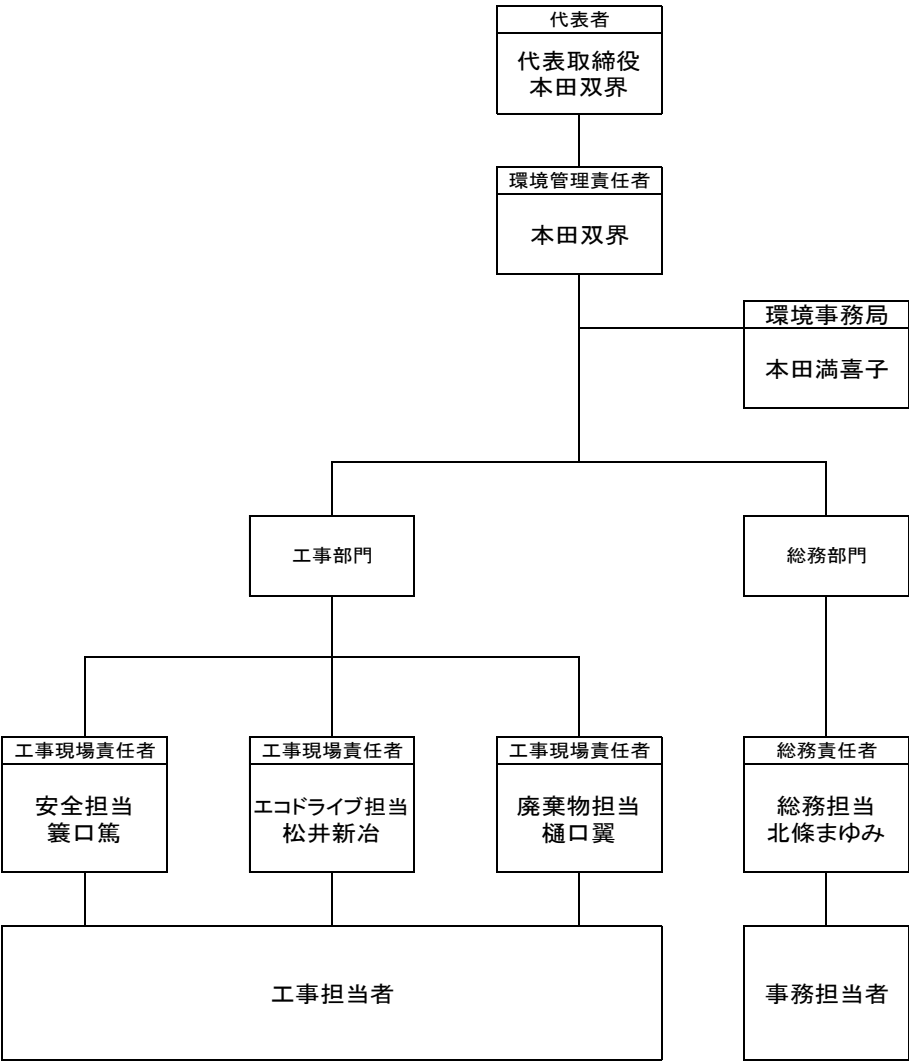
・購入電力の二酸化炭素排出係数は、2017年度東北電力㈱の調整後排出係数0.488 kg-CO₂/kWhを使用

・集計期間は当該年6月から翌5月

(9) 組織図

株式会社本田工業

環境管理実施体制



(10) 事業の許可概要

(ア) 特定建設業の許可内容

許可区分	許可番号	許可の有効期限	建設業の種類
特定建設業	新潟県知事許可 (特－2)第5282号	令和2年7月17日から 令和7年7月16日まで	土木工事業 とび・土工工事業 舗装工事業 水道施設工事業 解体工事業

(イ) 一般建設業の許可内容

許可区分	許可番号	許可の有効期限	建設業の種類
一般建設業	新潟県知事許可 (般－2)第5282号	令和2年7月17日から 令和7年7月16日まで	管工事業

(ウ)産業廃棄物収集運搬業の許可内容

◇事業の基本計画

産業廃棄物収集運搬業については、新潟県内において、主に建設産業廃棄物排出者の委託を受け、車両11台を用いて収集運搬を行う。これらの実施に当たっては、廃棄物処理法を遵守し行う。

◇産業廃棄物収集運搬業

許可区域 (許可)	許可年月日	事業の範囲
	許可有効期限	
	許可番号	
新潟県 (産業廃棄物 収集運搬業)	令和5年12月5日	(積替え・保管を除く。) 廃プラスチック類、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、 がれき類(以上、石綿含有産業廃棄物を含む。)、紙くず、木くず、 繊維くず(以上、石綿含有産業廃棄物を除く。)、汚泥(無機性の ものに限る。)、廃油、動植物性残さ、金属くず、(以上、水銀使用 製品産業廃棄物を含み、水銀含有ばいじん等を除く。) (優良基準適合認定)
	令和12年11月10日	
	01508007294	
新潟県 (特別管理 産業廃棄物 収集運搬業)	令和5年12月5日	(積替え保管なし) 感染性産業廃棄物 (優良基準適合認定)
	令和12年11月10日	
	01558007294	

◇産業廃棄物収集運搬業事業の用に供する全ての施設

運搬車両の種類	台数	運搬品目
ダンプ	13台	汚泥、廃油、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
キャブオーバ	1台	
パン	2台	
塵芥車	1台	

(エ)一般廃棄物収集運搬業(新潟市許可)

許可年月日	令和5年4月1日
許可番号	指令第119号
許可の有効期限	令和7年3月31日
取扱廃棄物	一般ごみ
許可の条件	一般ごみの収集区域は、平成17年3月20日現在の白根市域、小須戸町域、味方村域、月潟村域及び中之口村域とする。

2 対象範囲

(1) 認証・登録の範囲

全組織・全活動をエコアクション21の活動の対象とする。

(2) 環境経営レポートの対象期間及び発行日

対象期間 表紙に記載のとおり。

発行日 表紙に記載のとおり。

3 環境経営方針

環 境 経 営 方 針

基 本 理 念

株式会社本田工業は、配管工事業、土木工事業、産業廃棄物収集運搬業を通じて、快適で安心して生活できる社会環境の実現に貢献するため、美しく住みよい中之口川流域の生活環境作りにチャレンジしていきます。

このため、以下の活動方針に基づき、環境の保全、安全確保活動等を全員参加のもとで進めるとともに、経営における課題やチャンスをつままえながら環境経営の継続的な改善を進めます。

活 動 方 針

- 1 節電、車両のエコ安全ドライブ、重機のエコ運転に努め、二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- 2 業務における安全を確保し、また向上心のある人材の育成に努めます。
- 3 水の効率的な使用を常に念頭に置き、節水に努めます。
- 4 建設工事業者及び廃棄物収集運搬業者として、廃棄物の再資源化に努めます。
- 5 一般廃棄物排出量の削減に努めます。
- 6 環境等の関連法令を遵守します。
- 7 環境経営方針は公表し、全従業員に周知し、全従業員が参加して活動します。

平成 24 年 6 月 28 日

令和元年 8 月 6 日改訂

株 式 会 社 本 田 工 業

代表取締役

本 田 双 界

4 環境経営目標とその実績及び評価

(1) 環境経営目標

2022年度の代表者による全体の評価と見直し・指示に基づき、車両(ガソリン車・軽油車)及び重機についての原単位目標を改め、軽油・ガソリンの使用量について削減目標を定めることとし、2023年度から2025年度の3ヵ年の中長期の環境経営目標を下表のとおり定めました。

中長期の環境経営目標（2023年度～2025年度）

全社

項 目		単位 又は区分 (年間値)	基準年実績 2021年6月 ～2022年5月	環境経営目標(基準年比削減率%)		
				△基準年比削減率		▲同増加率
				2023年度	2024年度	2025年度
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	kWh	14,538	2023年6月 ～2024年5月	2024年6月 ～2025年5月	2025年6月 ～2026年5月
				14,465	14,393	14,320
	化石燃料使用量の削減	ℓ	8,928	△0.5%	△1.0%	△1.5%
				8,884	8,839	8,794
		ℓ	32,446	△0.5%	△1.0%	△1.5%
				32,284	32,122	31,959
		ℓ	800	△0.5%	△1.0%	△1.5%
				796	792	788
		m ³	198	△0.5%	△1.0%	△1.5%
				197	196	195
		kg-CO ₂	113,939	△0.5%	△1.0%	△1.5%
				113,369	112,800	112,230
	水使用量の削減	m ³	212	212	212	212
				維持	維持	維持
	建設廃棄物の再資源化率向上	t(%)	98	98	98	98
				維持	維持	維持
安全の確保	再生される古紙収集運搬量の増加	t	13.05	13.12	13.18	13.25
				▲0.5%	▲1.0%	▲1.5%
各種資格取得の支援	安全の確保	—	交通事故ゼロ 安全運転活動の実施 安全パトロールの実施	交通事故ゼロ 安全運転活動の実施 安全パトロールの実施	交通事故ゼロ 安全運転活動の実施 安全パトロールの実施	交通事故ゼロ 安全運転活動の実施 安全パトロールの実施
				活動評価点 2.5以上	活動評価点 2.5以上	活動評価点 2.5以上
各種資格取得の支援	3段階評価点	—	各種資格取得の 支援の実施	—	—	—
				—	—	—

・購入電力の二酸化炭素排出係数は、2021年度東北電力㈱の調整後排出係数0.488kg-CO₂/kWh

・PRTR制度対象物質の使用は、ほぼないことから、環境経営目標は設定せず、適正に管理し定期的に確認する。

・建設廃棄物の再資源化率向上の基準年実績は2020年度の実績です。

(2) 環境経営目標の達成状況

2023年度（2023年6月～2024年5月）の環境経営目標とその達成状況は下表のとおりです。

灯油及び都市ガスの使用量についての環境経営目標は達成することが出来ました。また建設廃棄物の再資源化率向上、再生される古紙収集運搬量、安全の確保及び各種資格取得についての環境経営目標を達成しました。一方、電力使用量、電力及び化石燃料使用量に由来する二酸化炭素排出量、水使用量及び一般廃棄物排出量（可燃ごみ）に関する環境経営目標は達成することができませんでした。

環境経営目標の達成状況（2023年度）

全社

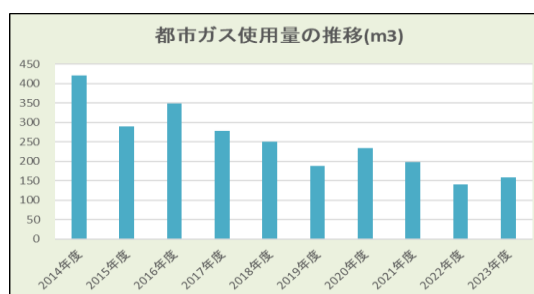
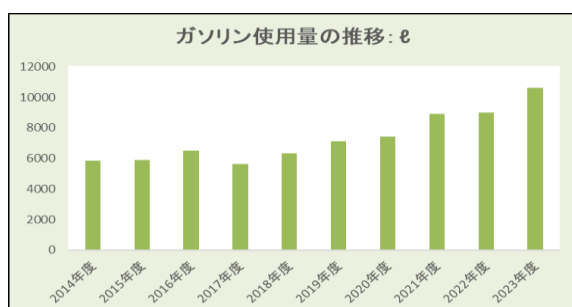
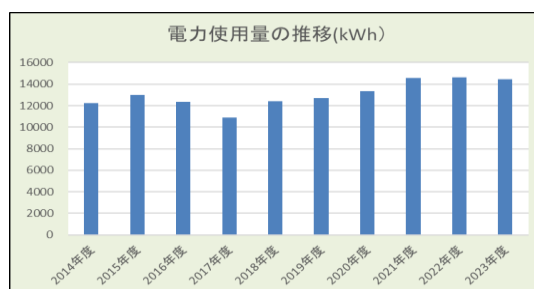
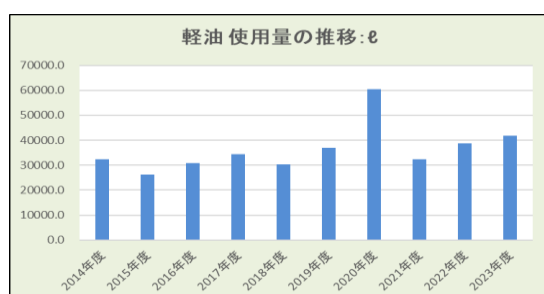
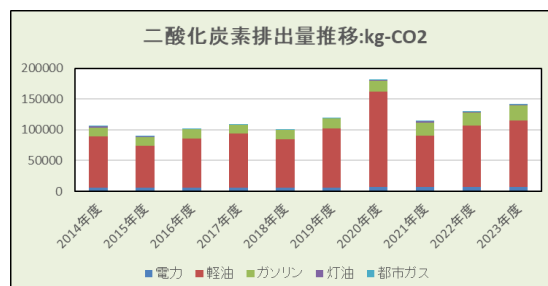
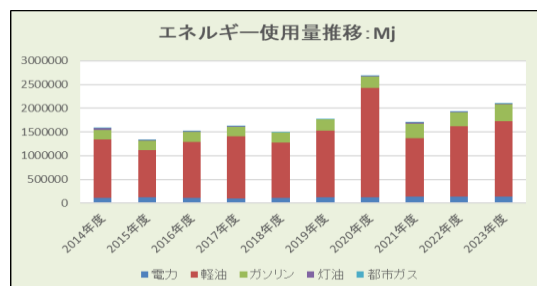
項 目		単位 又は区分 (年間値)	基準年実績	環境経営目標	実績	達成状況	
			2021年6月 ～2022年5月	2023年6月～2024年5月		評価 ○:達成 ×:未達成	
			使用量又は排出量 等	△:基準年度比削減率 ▲:基準年度比増加率			
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減		kWh	14,538	14,465	14,477	×
					△0.5%	△ 0.420 %	
	化石燃料使用量の削減	ガソリン	ℓ	8,928	8,884	10,614	×
					△0.5%	▲ 18.9 %	
		軽油	ℓ	32,446	32,284	41,926	×
					△0.5%	▲ 29.2 %	
		灯油	ℓ	800	796	170	○
					△0.5%	△ 78.8 %	
		都市ガス	m ³	198	197	158	○
					△0.5%	△ 20.2 %	
	上記項目計 二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	113,939	113,369	140,623	×	
				△0.5%	▲ 23.4 %		
水使用量の削減		m ³	212	212	229	×	
				維持	▲ 8.0 %		
一般廃棄物排出量の削減 (可燃ごみ)		kg	3220	3,059	3,980	×	
				△5.0%	▲ 23.6 %		
建設廃棄物の 再資源化率向上		(%)	98	98	99.8	○	
				維持	+ 1.8 %		
再生される 古紙収集運搬量の増加		t	13.05	13.12	14.39	○	
				▲0.5%	▲ 10.3 %		
安全の確保		—	交通事故ゼロ 安全運転活動の実施 安全パトロールの実 施	交通事故ゼロ 安全運転活動の実施 安全パトロールの実 施	交通事故ゼロ 安全運転活動の実施 安全パトロールの実 施	○	
各種資格取得の支援		3段階評価点	各種資格取得 の 支援の実施	活動評価点 2.5以上	3	○	
				—	—	—	

- ・購入電力の二酸化炭素排出係数は、2021年度東北電力㈱の調整後排出係数0.488kg-CO₂/kWh
- ・PRTR制度対象物質の使用は、ほぼないことから、環境経営目標は設定せず、適正に管理し定期的に確認する。
- ・建設廃棄物の再資源化率向上の基準年実績は2020年度の実績です。

(3) 環境経営目標の実績の評価

(ア) 二酸化炭素排出量の削減

二酸化炭素排出量の削減するためその発生源となる電力使用量、ガソリン・軽油・灯油及び都市ガス使用量の削減目標を定め、活動を行っています。二酸化炭素排出量の推移を下図に示しました。エネルギー使用量に占める割合は軽油由来が多く、その使用量は工事規模、種類により変動しています。全体的には事業の拡大に伴い二酸化炭素排出量は増加傾向となっています。暖房用に使用している都市ガスは空調（電力）に切り替え使用量は減少しています。電力は、その分増加し全体的に増加傾向となっています。



二酸化炭素排出量の由来となる電力及び化石燃料の環境経営目標の達成状況を以下に示しました。

①電力使用量の削減

電力使用量の削減目標は、基準年度（2021年度：2021年6月から2022年5月 以下基準年度という。）実績14,538 k Wh）の0.5%削減の14,465, kWh以下としました。

実績は、14,477 k Whと基準年度比で0.42%の削減で、目標とする0.5%以上の削減に至らず、環境経営目標を達成することが出来ませんでした。

冷暖房の空調や照明の消し忘れが見られたことから、2023年12月に電源の消し忘れを防止する各自の日頃の行動及び電源の消し忘れ防止のための提案を全員から受けました。

他人任せにすることなく消し忘れを発見したときは積極的に電源をOFFにすること、また人感センサーや電源タイマーの採用の提案等、様々な積極的な節電意識が確認されました。提案は可能な範囲で実施するよう努めて行きます。

②ガソリン使用量の削減

ガソリン使用量の削減目標は、基準年度実績(8,928ℓ)の0.5%削減の8,884ℓ以下としました。

実績は、10,614ℓで基準年度比で18.9%増加し、目標を達成することができませんでした

工事現場数も増えてガソリン車は一台の増車があり、それに伴いガソリン使用量は増加しました。

エコドライブの取組を今後も心がけガソリン使用量の低減に努めます。

③ 軽油使用量の削減

軽油使用量の削減目標は、基準年度実績（32,446ℓ）の0.5%削減の32,284ℓ以下としました。実績は41,926ℓで基準年度比で29.2%の増加で、環境経営目標を達成できませんでした。工事業量及び重機の使用頻度が高い工事が増え、軽油使用量は、増加しました。今後とも、トラック及び重機のエコドライブ、エコ運転に心がけ、軽油使用量の低減に努めます。

④ 灯油使用量の削減

灯油使用量の削減目標は、基準年実績（800ℓ）の0.5%削減の796ℓ以下としました。実績は、170リットルで基準年度比で78.8%の削減で、環境経営目標を達成しました。暖房用として使用していた灯油は、電力による空調に切り替えたことにより、ストーブの灯油使用量は、減少しました。

⑤ 都市ガス使用量

都市ガス使用量削減の目標は、基準年実績（198m³）の0.5%削減の197m³以下としました。実績は158m³と基準年比で20.22%削減され、目標を達成しました。都市ガスの暖房使用を控え、電力による空調使用を優先させたことが、減少の理由です。

⑥ 電力及び化石燃料使用に伴う二酸化炭素排出量の削減

電力及び化石燃料使用に伴う二酸化炭素排出量の削減目標は、基準年度実績（113,939kg-CO₂）の0.5%削減の113,369kg-CO₂以下としました。実績は、140,623kg-CO₂でガソリン及び軽油使用量の増加に伴い、23.4%増加し、環境経営は達成することは出来ませんでした。今後とも、二酸化炭素排出源となる電力及び化石燃料の削減に努めます。

(イ) 水使用量の削減

水使用量削減の環境経営目標は、基準年度実績（212m³）を維持することとしました。実績は、229m³と基準年度比で8.0%増加し、環境経営目標を達成することができませんでした。工事現場での汚れ防止のための散水が増加し、水使用量の増加に繋がりました。

こまめな止水等の節水活動の取組を引き続き心がけます。

(ロ) 一般廃棄物排出量の削減（可燃ごみ）

一般廃棄物排出量の環境経営目標は、事務所から排出する可燃ごみとし、基準年度実績（3,220kg）の5.0%削減の3,059kg以下としました。

実績は、3,980kgと基準年度比で23.6%の大幅な増加となり、環境経営目標を達成することができませんでした。

使用・利用しない書類の整理を進めており、増加傾向が続いています。分別の徹底や、ごみ削減の活動などの取組を引き続き心がけます。

(ハ) 建設廃棄物の再資源化率向上

建設廃棄物の再資源化率向上の環境経営目標は、基準年実績の98%を維持することとしました。実績は、99.8%と目標の98%を上回り、環境経営目標を達成しました。これからも、再資源化の徹底を行っていきます。

再資源化率の算定数値は下記のとおりです。

産業廃棄物排出	再資源化量	再資源化率	対象年度
1,137.15t/年	1,134.87t/年	99.8%	2023年度

(ニ) 再生される古紙収集運搬量の増加

再生される古紙収集運搬量の増加に係る環境経営目標は、基準年度実績（13.05t）の0.5%増の13.12t以上としました。実績は、14.39tと基準年度比10.3%の増加で環境経営目標を達成することができました。今後とも、事業系一般廃棄物の収集運搬において再生される古紙の回収に努めます。

(ホ) 安全の確保

安全の確保に係る環境経営目標は、交通事故ゼロ、安全運転活動の実施、安全パトロールの実施としました。

交通事故は年間ゼロを達成しました。安全パトロールを積極的に実施しました。安全運転活動についての各自の点検結果は概ね良好で安全確保活動に係る環境経営目標は達成しました。毎日行う作業内容の伝達と作業内容の把握を確実にし、事故防止に努めます。

(ヘ) 各種資格取得の支援

各種資格取得の支援の環境経営目標は、活動項目の活動評価点の平均値が3段階評価による評価点2.5以上を目標としました。3段階評価の評価基準は、「3：できた。2：出来たが要努力。1出来なかった。」としました。評価点の平均値は3.0と環境経営目標を達成しました。

5 環境経営計画と取組状況の評価

(1) 環境経営計画と取組結果

環境経営目標を達成するため、環境活動内容及びスケジュール等からなる環境経営計画を下記のとおり定めました。
各活動の項目ごとに実施状況を点検し、3段階で評価した結果は、下表のとおりです。評価点2：一部出来たが更に努力が必要な項目がありますが、向上を目指し、取組を続けます。
また、活動の意識は着実に向上が見られました。更に実施度を高めるよう取組んでいきます。

【総務部門】 評価基準(3:出来た 2:一部出来たが更に努力が必要 1:出来なかった)

項 目			環境活動の内容	日 程	責任者	取組結果	次年度取組
二酸化炭素排出量の削減	エコ安全ドライブの推進		安全運転・エコドライブの周知・指導	—	交通安全管理者 本田満喜子	—	—
			・車両の点検記録・運転記録の管理	通年		3.0	継続
			・安全運転教育の管理	通年		2.0	継続
			・安全運転教育の実施	通年		2.0	継続
	電力使用量の削減	節電	空調管理の適正化	—	北條まゆみ	—	—
			・冷房時の室内温度を28℃とする。	夏季冷房期		2.0	継続
			・空調フィルターの定期的清掃。	3月に1回		3.0	継続
			・不使用場所での消灯(トイレ、倉庫、詰所)	通年		3.0	継続
			・冷暖房時に扇風機による室内温度の均一化を図る。	夏季冷房期		3.0	継続
			照明の可能な範囲での消灯	—		—	—
			・不使用場所での消灯(トイレ、倉庫、詰所)	通年		3.0	継続
			・長期不使用時のパソコン・プリンターの電源オフ	通年		3.0	継続
			・昼休み時の消灯の励行	通年		3.0	継続
			・天井照明の間引き照明	通年		2.0	継続
	化石燃料使用量の削減 (灯油、ガス)		・暖房の室内温度を20℃に設定する。	冬季暖房期	成田豊	2.0	継続
			・不要箇所での暖房を停止する。	冬季暖房期		3.0	継続
			・暖房運転時期を見誤らない。	冬季暖房期		3.0	継続
			・温水の無駄な出し放しをしない。	通年		3.0	継続
	水使用量の削減		・節水啓発ステッカーを掲示する。	通年	社長	3.0	継続
			・洗車はストップバルブ付きのホースを用い行う。	夏季及び暖房期		3.0	継続
			・水漏れを点検し、水漏れを修繕する。	通年		3.0	継続
	一般廃棄物排出量の削減 (可燃ごみ)		・コピー用紙は両面使用し、使用枚数を減らす。	通年	北條まゆみ	3.0	継続
			・縮小印刷・ミスプリントの抑制等によるプリンター用紙の節減	通年		3.0	継続
			・使用済み封筒の再利用	通年		3.0	継続
			・廃棄物の保管は分別を徹底し、紙類はリサイクルに回す。	通年		3.0	継続
	再生される古紙収集運搬量の増加		・排出元に古紙分別の推進をお願いする。	通年	本田満喜子	3.0	継続
			・新規古紙排出元を開拓する。	通年		2.0	継続
	各種資格取得の支援		・資格取得講習会・試験日程の情報収集と周知	通年	本田満喜子	3.0	継続
			・教材の提供等支援の実施	通年		3.0	継続
			・資格取得者名簿の作成管理	通年		3.0	継続

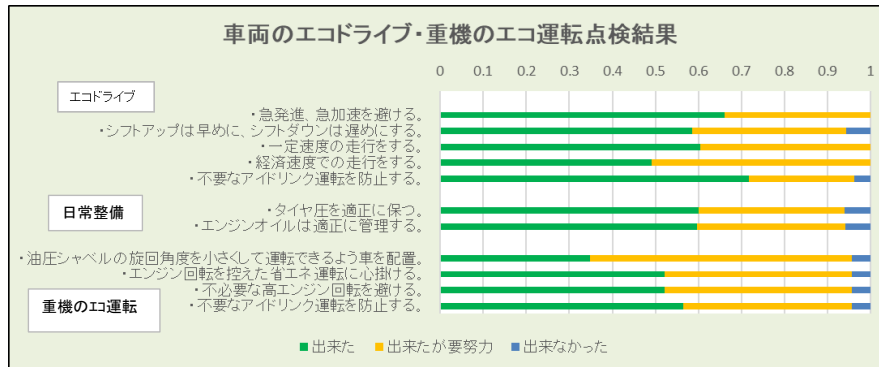
【工事部門】

項 目			環境活動の内容	主要な日程	責任者	取組結果	次年度取組
二酸化炭素排出量の削減	化石燃料使用量の削減	エコドライブの実践	エコドライブの周知	8月	松井新治	2.0	継続
			エコドライブの実践	—		—	—
			・急発進、急加速を避ける。	通年		2.7	継続
			・シフトアップは早めに、シフトダウンは遅めにする。	通年		2.5	継続
			・一定速度の走行をする。	通年		2.6	継続
			・経済速度での走行をする。	通年		2.5	継続
			・不要なアイドリング運転を防止する。	通年		2.7	継続
			日常整備3	—		—	—
			・タイヤ圧を適正に保つ。	通年		2.5	継続
			・エンジンオイルは適正に管理する。	通年		2.5	継続
		重機のエコ運転	・油圧シャベルの旋回角度を小さくして運転できるよう車を配置	通年	松井新治	2.3	継続
			・エンジン回転を控えた省エネ運転に心掛ける。	通年		2.5	継続
			・不必要な高エンジン回転を避ける。	通年		2.5	継続
			・不要なアイドリング運転を防止する。	通年		2.5	継続
			・発注者の指示に従い、リサイクルを徹底する。	通年	樋口 翼	3.0	継続
			・現場での建設廃棄物の分別を行う。	通年		3.0	継続
		建設廃棄物の再資源化率の向上	・廃棄物置場の管理を適切に行う。	通年		3.0	継続
			・収集運搬業許可証の携帯・車両の表示を徹底する。	通年		3.0	継続
			・処分先の処理状況を確認記録する。	通年		3.0	継続
			・再資源化処理を行う許可業者に処分委託を行う。	通年		3.0	継続
		安全の確保	・車両の日常点検の実施	通年	簀口 篤	3.0	継続
			・車両の定期点検の実施	通年		3.0	継続
			・安全パトロールの実施	通年		3.0	継続
			・ヒヤリ・ハット事案の再発防止に心掛ける。	通年		3.0	継続
			・無事故の継続	通年		3.0	継続
			・物品、資材は定位置に置場を決め、確実に実施する。	通年	社 長	2.0	継続
			・5Sの実施	通年		2.0	継続
		5S活動の推進	・シンナー含有塗料の適正管理・点検	通年	本 田 進 平	3.0	継続
		化学物質の適正管理	・技能実地教育・技能の伝承	通年		3.0	継続
		各種資格取得の支援					

(2) エコ安全ドライブの取組状況の点検結果

全員がエコアクション活動に参加することを基本とし、全運転者が各自のエコ安全ドライブ及び重機のエコ運転の実施状況を点検し、併せて改善提案も記録しています。その結果は、下図のとおりです。

活動内容について、一部実施したが更に努力が必要（要努力）の割合が、多い項目については、実践について理解を深めるよう努めて行きます。



運転者が自己点検した際、努力した点または改善提案も併せて提出されました。その内容は、以下のとおりです。

努力した点

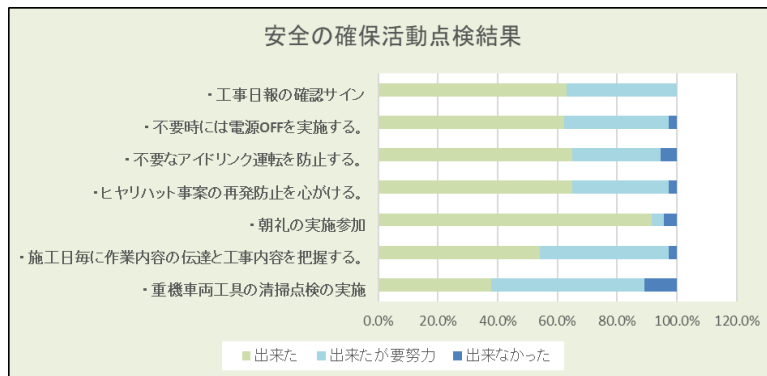
- ・環境について意識運転した。
- ・不要なアイドリングしないようにした。
- ・エンジンオイルは適正に管理した。
- ・タイヤ圧の点検をスタンドで月1回行った。
- ・乗る前にダンプ1周回ってから運転席に座った。
- ・急発進。急加速を避け安全運転を心掛けた。
- ・早めのシフトアップ遅めのシフトダウンに心がけた。
- ・安全運転を心がけている。
- ・アクセルをスムーズに操作した。
- ・車両の日常点検記録を毎日記録できた。
- ・無駄なスピードは出さないで運転した。
- ・車両の点検忘れずに行った。

(3) 安全の確保活動の取組状況の点検結果

エコ安全ドライブの各自点検に併せ、安全確保の取組について各自が点検を行いました。

出来たが更に努力が必要な事項があることが確認され、評価点の向上に努めます。

作業内容の伝達と作業内容の把握は毎日行っていますが、更に全員が情報を共有し伝達及び把握の徹底に努めます。



(3) 活動事例

エコドライブ・安全運転推進のステッカーを運転席に備えつけて、安全運転に心がけています。

また健康管理や安全確保のためアルコールチェックを含めた健康状態チェックシートの記録を行うとともに体力測定レクリエーションを行い健康管理に努めています。

また、倉庫の整理整頓のステッカーをはり、日頃の実践に努めています。

車両・重機のエコドライブ・エコ運転



令和5年 9/5 健康状態チェックシート 熊本県工業 労働安全衛生 労働者の健康状態を把握し、作業中の危険を未然に防ぐためです。

氏名	出勤時		退社時	
	①測定	②検定	①測定	②検定
本間 隆雄	✓	○		
山口 隆	✓	○		
松田 新治	✓	○		
坂田 豊	✓	○		
小林 真佑	✓	○		
山口 真	✓	○		
宮本 隆幸	✓	○		
宮本 真	✓	○		
宮本 仁之	✓	○		
西島 富幸	✓	○		
藤 正	✓	○		
藤田 秀	✓	○		
松田 公一	✓	○		
青柳 有良	✓	○		
長瀬 裕隆	✓	○		
村松 隆	✓	○		
相模 光輝	✓	○		
小林 雅人	✓	○		
志保 一良	✓	○		
長島 幸一	✓	○		
白井 秀	✓	○		
本佐 満喜子	✓	○		
本田 福美	✓	○		
乙原 正幸	✓	○		
藤 隆子	✓	○		
高橋 龍紀子	✓	○		



6 社会貢献活動の実施状況

(1) 花壇づくり活動への参加

例年、地元商工会女性部の呼びかけに参加し、公共空間における花壇づくり活動に参加し活動をおこなっています。令和5年6月10日に旧中之口村先人館花壇の花の植替え作業に参加しました。美しい花が咲き、皆様に鑑賞される日が来ると思います。

(2) 消防団への協力

消防団協力事業所として登録し認定を受けています。緊急事態発生時には、砂、砕石等の資材、発電機等の提供を行います。

7 環境教育の実施

2023年度では、2023年12月28日に物損事故防止研修会を開催し、各自事故防止の取組状況及び提案をとりまとめ、事故防止のための自己啓発活動を行いました。

始業時前の危険予知活動の充実

危険作業時の監視員の配置充実

声掛け運動の奨励

等貴重な意見が出され、実際の工事現場で生かされる機会となりました



8 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 環境関連法規等の遵守状況の確認結果

当社が規制対象となる環境関連法令は、下表に掲げる法令です。

上記の環境関連法令について、遵守状況を自主点検した結果、違反はないことを確認しました。

NO	関係法令
1	水質汚濁防止法
2	大気汚染防止法
3	浄化槽法
4	廃棄物処理法
5	新潟市産業廃棄物等の適正な処理の促進に関する条例
6	建設リサイクル法
7	家電リサイクル法
8	自動車リサイクル法
9	騒音規制法
10	新潟市生活環境の保全等に関する条例
11	消防法
12	新潟市火災予防条例
13	一般高圧ガス保安規制
14	フロン排出抑制法
15	道路交通法
16	道路運送車両法
17	オフロード法
18	建設業法
19	石綿障害予防規則

(2) 違反、訴訟等の有無

当社は、関係当局から違反などの指摘は、ありませんでした。また訴訟もありません。

9 代表者による全体評価と見直しの結果

(1) 全体評価と指示事項

事業規模の拡大によりガソリン・軽油の使用量が増加し二酸化炭素排出量及び水使用量の環境経営目標は未達成となった。建設廃棄物の再資源化率、再生古紙の収集運搬量、資格取得の支援及び安全の確保の環境経営目標は達成し成果も認められた。無駄をなくし環境負荷の低減に向けて今後も活動を進めて行く。

(2) 見直しの結果

(ア) 環境経営方針

当社の環境経営を巡る情勢に特に変化はなく、変更の必要性はない。

(イ) 環境経営目標

2023年度当初に、2021年度実績を基準実績とし、2023年度から2025年度の環境経営目標を定めた。2021年度に比べ事業規模も拡大しエネルギー使用量は増加傾向にあるが、現環境経営目標を変更せず負荷の低減に取り組んでいく。2024年度も事業規模の増加傾向が続く場合は、基準年度を見直し環境経営目標の変更を検討する。

(ウ) 環境経営計画

環境経営計画の活動内容は、分かり易い活動内容に変更すること。

また、空調機、照明の消し忘れの防止、物損事故防止に関し全員のアンケート調査において提案された提言を取り入れて活動を進めていく。

(エ) 実施体制

現行の実施体制に問題はなく、変更の必要性はない。

(オ) その他環境経営システム

変更を要する事項は認められない。

10 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

(1) 環境経営目標

次年度の環境経営目標は、p-5 中長期の環境経営目標（2023年度～2025年度）の表のとおりです。

(2) 環境経営計画

代表者による全体の評価と見直し・指示により、環境経営計画の活動内容は、分かり易い活動内容に変更するよう指示があり、見直しを行い、下表のとおりとしました。

【総務部門】

項 目			環 境 活 動 の 内 容	日 程	責 任 者
二 酸 化 炭 素 排 出 量 の 削 減	化 石 燃 料 使 用 量 の 削 減	エコ安全ドライブの推進	安全運転・エコドライブの実践	通 年	交通安全管理者 本田満喜子
			・急発進、急加速を避ける。	通 年	
			・シフトアップは早めに、シフトダウンは遅めにする。	通 年	
			・一定速度の走行をする。	通 年	
			・経済速度での走行をする。	通 年	
			・不要なアイドリング運転を防止する。	通 年	
			日常整備	—	
			・車両の日常点検記録実施	通 年	
			・タイヤ圧を適正に保つ。	通 年	
			・エンジンオイルは適正に管理する。	通 年	
	電力使用量の削減	節電	空調管理の適正化	—	北條まゆみ
			・冷房の室内温度を2適正に管理する。	夏季冷房期	
			・空調フィルターの定期的清掃。	3月に1回	
			・使用していないエリアの空調停止。	夏季及び暖房期	
			照明の可能な範囲での消灯	—	
			・不使用場所での消灯（トイレ、倉庫、詰所）	通 年	
			・長期不使用時のパソコン・プリンターの電源オフ	通 年	
			・昼休み時の消灯の励行	通 年	
	化石燃料使用量の削減 （灯油、ガス）		・暖房の室内温度を適正に管理する。	冬季暖房期	成田豊
			・不要箇所での暖房を停止する。	冬季暖房期	
			・温水の無駄な出し放しをしない。	通 年	
水使用量の削減		・節水を心がける。	通 年	社長	
		・洗車はストップバルブ付きのホースを用い行う。	通 年		
一般廃棄物排出量の削減 （可燃ごみ）		保管書類等の知一	通 年	北條まゆみ	
		・縮小印刷・ミスプリントの抑制等によるプリンター用紙の節減	通 年		
		・使用済み封筒の再利用	通 年		
		・廃棄物の保管は分別を徹底し、紙類はリサイクルに回す。	通 年		
再生される古紙収集運搬量の増加		・排出元に古紙分別の推進をお願いする。	通 年	本田満喜子	
		・新規古紙排出元を開拓する。	通 年		
整理整頓		・事務用品・備品・保管書類等は定位置を決め保管する。	通 年	本田満喜子	
		・共有書類は共有ホルダーで保管整理する。	通 年		
各種資格取得の支援		・資格取得講習会・試験日程の情報収集と周知	通 年	本田満喜子	
		・教材の提供等支援の実施	通 年		
		・資格取得者名簿の作成管理	通 年		
安全の確保		・朝礼の実施・参加と安全確保の確認	通 年	本田満喜子	
各種資格取得の支援		・資格取得講習会・試験日程の情報収集と周知	通 年	本田満喜子	
		・教材の提供等支援の実施	通 年		
		・資格取得者名簿の作成管理	通 年		

【工事部門】

項 目		環境活動の内容	主要な日程	責任者
二酸化炭素排出量の削減	化石燃料使用量の削減	エコドライブの実践	—	松井新治
		・急発進、急加速を避ける。	通年	
		・シフトアップは早めに、シフトダウンは遅めにする。	通年	
		・一定速度の走行をする。	通年	
		・経済速度での走行をする。	通年	
		・不要なアイドリング運転を防止する。	通年	
		日常整備	—	
		・車両の日常点検記録実施	通年	
		・タイヤ圧を適正に保つ。	通年	
		・エンジンオイルは適正に管理する。	通年	
	重機のエコ運転	・油圧シャベルの旋回角度を小さくして運転できるよう車を配置	通年	
		・エンジン回転を控えた省エネ運転に心掛ける。	通年	
		・不必要な高エンジン回転を避ける。	通年	
		・不要なアイドリング運転を防止する。	通年	
建設廃棄物の再資源化率の向上		・発注者の指示に従い、リサイクルを徹底する。	通年	樋口 翼
		・現場での建設廃棄物の分別を行う。	通年	
		・廃棄物置場の管理を適切に行う。	通年	
		・収集運搬業許可証の携帯・車両の表示を徹底する。	通年	
		・処分先の処理状況を確認記録する。	通年	
		・再資源化処理を行う許可業者に処分委託を行う。	通年	
安全の確保		・重機・車両工具の清掃・点検の実施	通年	簗口篤
		・施工日毎に作業内容の伝達と工事内容の把握	通年	
		・朝礼の実施参加と安全確保の確認	通年	
		・ヒヤリ・ハット事案の再発防止に心掛ける。	通年	
		・車両・重機・機器の不使用时における動力OFFを徹底	通年	
		・工事日報の確認サイン	通年	
5S活動の推進		・物品、資材は定位置に置場を決め、確実に実施する。	通年	
		・清掃実施	通年	
化学物質の適正管理		・シンナー含有塗料の適正管理・点検	通年	社 長
各種資格取得の支援		・技能実地教育・技能の伝承	通年	本田進平